令和６年度シラバス

教　科	科　　目	単位数	履修学年・クラス
国　語	現代の国語	２	１－１・１－Ａ

１．学習の到達目標

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けさせ、さらに論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

２．学習の計画

	学　習　内　容	学　習　の　ね　ら　い
１学期	《書き手の意図をつかむ》 「目指す世界の地図を作る」 《文章の展開を把握する》 「時間とは何か」 「地球を旅する水の話」 基本的な学習内容の確認	・「地図を作る」という比喩にこめられた筆者のメッセージを読み取らせる。 ・本文中の表現について、筆者の意図やその効果を考えさせる。 ・論の展開を整理して、本文の要点をつかめるように心がける。 ・身の回りの水とどのようにかかわっていくべきか考え、自分の意見を考えさせる。
２学期	《対比を読み取る》 「水の東西」 「里山物語」 《コミュニケーションと言語》 「世間話はなぜするか」 《言葉の働きをとらえる》 「コインは円形か」 基本的な学習内容の確認	・二つの文化の比較を通じて、それぞれの特徴を浮き彫りにしようとする筆者の施行をたどらせて、その違いを考察させる。 ・人間と自然のあり方をめぐる筆者の問題意識を把握し、「里山」への思いをおさえる。 ・日常的な言葉のやり取りに着目し、その背景にある知識や話し手の含意を読み取らせる。 ・具体例を読み解き、「レトリック」の意義を理解させ、筆者の意見を踏まえて、自分の認識の仕方を考えさせる。
３学期	《書き手の考えを比較する》 「科学と非科学」 《根拠を読み取る》 「『差』という情報」 「『わらしべ長者』の経済学」 基本的な学習内容の確認	・筆者の主張している点の違いを読み取り、自分はどのように考えるのか、根拠を示しながら論じさせる。 ・日常的な体験をもとに、「差」という観点から展開される筆者の施行を読み解き、「差」の持つ意味を考えさせる。 ・経済学の考え方をわかりやすく説明しようとする筆者の意図を踏まえ、「経済学的な考え方の普遍性」について、自分の意見をまとめさせる。

３．評価方法・評価の観点

評 価 方 法	定期テスト、提出物、授業態度による。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価の内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

４．使用教科書・副教材

使用教科書	新編　現代の国語（数研出版）
副　教　材	常用漢字ダブルクリア五訂版（尚文出版）